

成果指標				
成果指標	唐川ふれあいプラザの一日平均利用者数を20人にする。			
指標設定の考え方	佐礼谷ふれあいプラザは介護保険事業所として活用され、主に介護保険収入により運営されているため指定管理料を支払っていない。一方、唐川ふれあいプラザは送迎サービスを含めて委託料等を支払っており、更なる利用促進を求め、その成果を検証するために指標を設定した。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	目標27年度
目標	16	17	18	20
実績	16.2	16.6	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	利用者は増加したものの、目標の達成には至らなかった。送迎サービスの他、福祉バスによるアクセスも可能な施設であるため、指定管理者に対し、唐川地域だけでなく周辺地域からの利用促進を図るよう働きかけたい。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	高齢者福祉のための中核的施設である。指定管理者においては単に施設の管理にとどまらず、高齢者の健康増進と教養の向上のための施設として機能が向上することを希望する。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題